

川内前衛 谷沢川大清水沢～日本平山

佐貫

【日時】 2008年6月21日(土)～22日(日)

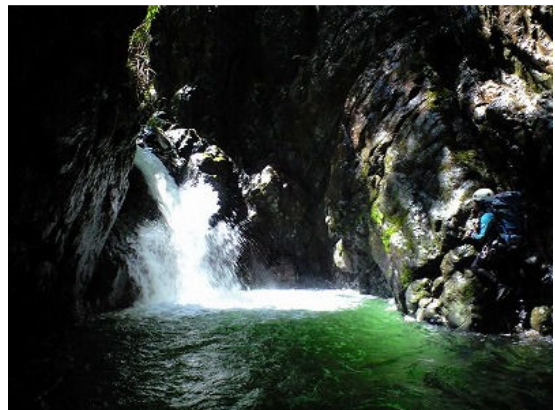
【メンバー】L佐貫、棚橋、浅井、斉藤

週末に近づくにつれ、天気予報が心もとなくなってきた。標高が低く雪の心配が比較的少ない室谷川から川内前衛にかけての山域を数年前からこの時期に少しずつ探訪しているが、今回は常浪川南大谷沢から谷沢川源流に山越えを試みようという算段だった。しかし、金曜夜から土曜朝にかけての雷雨の予報などもあり、サブルートで谷沢川に変更。去年遡行した五十母川くらいのレベルの沢かなあと想像しつつ、現地へ向かう。

三川駅からタクシーで谷沢集落の先の林道に入る。沢に下りる道を見逃して行き過ぎてしまったが、ゆっくり走りながら戻ってもらおうと地形図にはない道が沢に向かって降りていた。運転手さんに「谷沢川はヒルがいっぱいいるよ」と、いかにも物好きな人間を見るような視線を投げられながら支度をして沢へ向かう。思ったよりも林道は奥までつけられていた。入渓してしばらくはゴーロが続く。たまに両岸が立ってきてゴルジュっぽい雰囲気にはなるものの、基本的には何もない流れだ。何もないとはいえ、藻のような茶色っぽい物質が付着した沢床はヌルヌルで気が抜けない(ある意味不快ですらある)。

あくびの出そうなゴーロをひたすら歩いていくと、沢が左に屈曲して不似合いなくらいの水量の滝となっているのが見えた。釜のへりを泳いで見に行ってみるが、なかなか直登は難しそう。ショルダーでもやってみるかと思いながら戻ってみると、すでに浅井さんが右岸の踏み跡(トラロープ有り)を発見していたのでそこから巻く。その先にも2、3の小滝があるがいずれも楽に巻ける。釣り人のゴミを何箇所かで発見、しかし魚影はないのは何故なのか不思議に思いながら進む。

大釜を持つ4mほどの滝は、新人・健ちゃんを取り付きたそうにしていたが、ここは左岸からスパイクを履いて大きく巻いた。下の方が草付で悪いので思い切って上がるが、そうすると獣道のような踏み跡が拾えてルートが読めてくる。結局、落ち口よりも少し上で懸垂無しで巻き降りることが出来た。このあたりから徐々に魚影が見られるようになり、2回ほど竿を出す。ゴーロの合間にちょっとした滝があり、途中までは右壁に斜上するバンドを登れそうだったが落ち口付近に手も足もなく、ここも直登は断念。私が少し戻った草付を偵察している間に健ちゃんが急な露岩+草付+木登りルートを5m登っ



大釜を持つ滝(結局巻いた…)

て補助ロープを FIX。ここを抜けると、両岸は立ったスラブとなりいい雰囲気。非常に快適そうな幕場候補地を発見するも、雨が降ったら逃げ場がないので又左衛門沢出合まで歩を進めることにする。魚影は一層濃くなってきた。源頭放流でもしているのだろうか？又左衛門沢出合手前の幕場は薪も豊富で、雨にも降られず快適な夜だった。浅井さんにヒルの被害一箇所発覚。

日曜日、大清水沢は出合から三連瀑が見えてなかなか良さそうだ。とはいっても出合の滝から3つまとめて巻いてしまった・・・。一旦沢に下りるも、その先にまたもやヒ



日本平山にて。何も見えん！

谷沢口に下山したほうが早いのだが、下山後の温泉・食事がいっぺんに済み電車の本数も多いということで早出川ダム（五泉）方面に下りることにしていた。山頂でタクシーを予約し、いつヒルの群れに出くわすかと覚悟しながら下山を開始。途中には意外なほどのきれいなブナ林もあって、あのスラブに守られた早出川の近くにこんなところがと驚く。駒の神からはヒルのじゅうたんだと思っていたが、しばらく雨が降っていないためか、地面が乾ききっていてあのニョロニョロが蠢くことはなかった（ちょっと拍子抜け）。怪しげな空模様ではあったが、降り出す前にダムサイトに到着。懸念した通り、管理棟付近にひと気はなく、携帯も普通で公衆電話もないこの場所でタクシーを呼ぶのは難しかっただろう。15分ほどでタクシーが現れ、あとはいつものさくらんど温泉経由で帰京。長岡からの新幹線はガラガラで、楽チンだった。

【行程】

6/21 林道入口（7:55）－入溪（8:25）－又左衛門沢出合c1（16:40）

6/22 出発（5:55）－日本平山山頂（10:35/55）－早出川ダム（14:15）

【地図】御神楽岳、室谷、高石、越後豊川

【グレード】2級